

自分のいのちは自分で守る

平田小学校防災マニュアル

ダイジェスト版

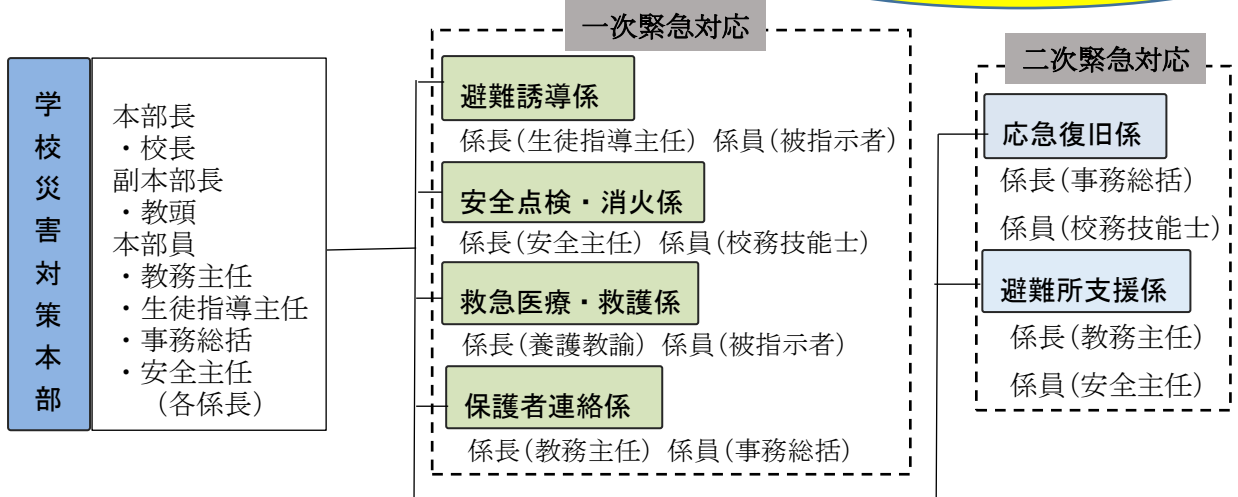


学校と学区の現状

ハザードの確認 P1

(1)	校舎	建築年：平成8(1996)年
	体育館	建築年：平成9(1997)年
(2)	校地	海岸から離れており、標高が4,6mである。津波は校地までは来ない想定である。(新田川を津波が遡上しても、影響は極めて少ない想定である。)水田地帯に立地しているため液状化による地割れや噴水・噴砂の可能性がある。東平田地区では山があり土砂災害等の危険がある。近くに新田川があり、大雨が降ると洪水の可能性がある。
(3)	学区	学区：東西約8km,南北約5km。例年6~7割程度の児童はスクールバスによる通学である。児童が通うもっとも遠い大平集落まで、通常時でも自動車でも20分程かかる。
(4)	地形	学校は水田の合間に立地し、学区内の大部分に低地が広がる。海岸からは遠く、学区の東部は山地である。
(5)	ハザード	酒田市、山形県等のハザードマップ(地震、土砂災害、洪水、火山)、災害の歴史、近年の経験等により、想定すべきハザードは以下のとおり。
	①地震・津波	庄内平野東縁断層帯の地震時の予想震度は、震度6強。学区の震度は市内でも大きい。日本海で地震発生の場合、平田小学区における津波は想定されていない。
	②液状化	液状化の可能性がある。(地震時に校舎と地面の段差、地割れ、噴水・噴砂の可能性)
	③土砂災害	学区の大部分は土砂災害の危険性はない。東部の山地部では土砂災害の可能性がある。
	④洪水	最上川堤防決壊の場合、学校も含め中平田地区、北平田地区では0,5m~2,0mほど浸水すると予測されている。新田川が氾濫した場合、学校も含めて中平田地区、北平田地区の一部が0,5m未満の浸水が予測されている。 通学路のうち、大多新田付近の道路は、強い雨が降ると冠水する。
	⑤地吹雪 その他	通学路のうち、熊野田付近と熊手島付近は、地吹雪の際に見通しが悪くなりやすい。 学区内に例年クマが出没する。
(6)	校外	学年行事等で行く場所で、想定すべきハザードは以下のとおり。
	①津波	緑地公園(3年校外学習)
	②その他	クマ出沒…大森山(1年生活科)、家族旅行村(4,5年自然教室)
(7)	避難場所 避難所	・避難場所(災害時に市民が自発的に避難する場所)本校グラウンド 収容4,091人 ・中平田地区避難所(住居を失った者等を収容する避難施設)本校体育館 収容386人 ・津波への一次、二次避難場所としての本校の指定はなし。
(8)	自主防災組織等	本校を市避難所として使用する場合の主な役員は次のとおり。 中平田自主防災組織(会長)、中平田コミュニティ振興会(会長) 平田小学校避難所連絡員

学校災害対策本部と業務内容



係名	業務内容	主な必要物品
本部	<ul style="list-style-type: none"> ○校内放送等による連絡や指示 ○応急（緊急）対応の決定 ○各係との連絡調整 ○教育委員会、酒田市災害対策本部、PTA等との連絡調整・報告 ○情報収集（気象、災害、交通情報等） ○非常持出品の搬出 ○報道機関との連絡・対応 	拡声器、メガホン ホイッスル 無線機（トランシーバー） ラジオ 懐中電灯 乾電池（各種） 引き渡しカード 在校児童生徒確認表
避難誘導係	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な避難経路を確認しての避難誘導 ○安否確認（負傷状況の把握）と本部への報告 ○安否確認できない児童生徒の搜索 	拡声器、メガホン ホイッスル 強力ライト
安全点検・消火係	<ul style="list-style-type: none"> ○火災が発生した場合の初期消火 ○被害状況の確認 ○校舎、その他施設の被害程度調査と本部への報告 ○初期消火の必要がない場合は、他の係を支援する。 	消火器 防煙マスク 安全点検表
救急医療・救護係	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急医薬品、担架の持ち出し（AED含む） ○負傷者の応急手当 ○救護所の設営（保健室が使えない状況を想定） ○医療機関への搬送・連絡 ○負傷者の救出、救命 ○負傷者、危険箇所等の通報 ○「心のケア」の実施 	医薬品 担架・AED 毛布 簡易テント、シート 担架 毛布 バール、スコップ等
保護者連絡係	<ul style="list-style-type: none"> ○一斉メール配信、電話連絡網での対応 ○防災無線、地域コミュニティを活用しての連絡 ○引き渡し対応の事前の取り決め ○引き渡し場所の指定 ○児童生徒の引き渡し作業（カード利用） 	引き渡しカード
応急復旧係	<ul style="list-style-type: none"> ○被害状況の把握 ○ライフライン被害状況の把握と本部への報告 ○危険箇所の応急処置 ○「立入禁止」「使用禁止」等の表示 	トラロープ 各種表示 各種工具
避難所支援係	<ul style="list-style-type: none"> ○酒田市災害対策本部と連携しての支援 ○避難所開設がない場合は、避難誘導、救護等の他係を支援する。 	放送機材、カラーコーン、 各種表示、腕章、ベスト

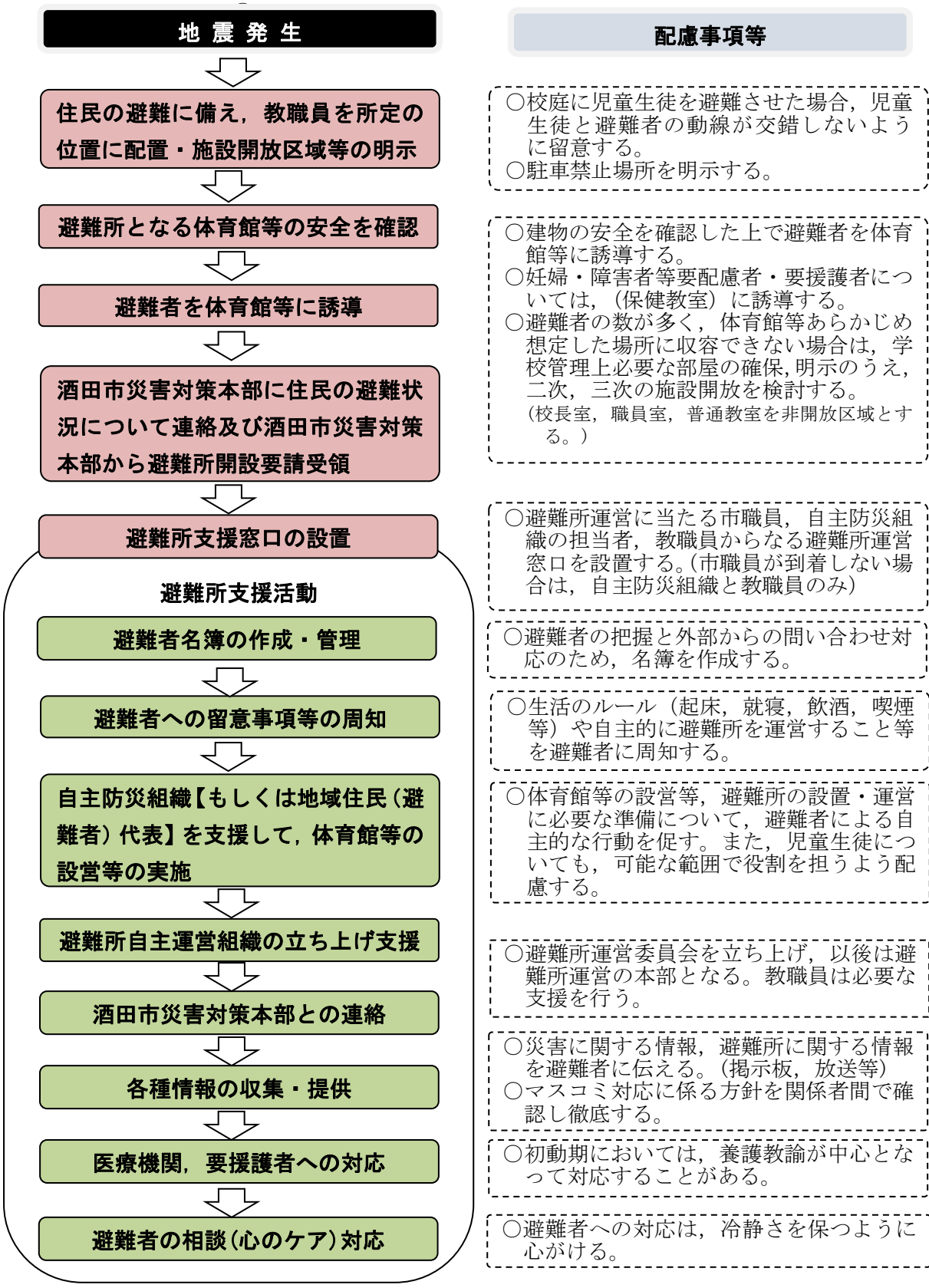
学校以外の非難場所

第1避難場所	中平田ライスセンター	第2避難場所	旧中平田小グラウンド	第3避難場所	北平田コミセン
--------	------------	--------	------------	--------	---------

学校が避難所となる際の対応

学校の避難所設置・運営にかかる協力（発災初期段階の例）

※学校に教職員等がいる時間帯において大地震が発生し、市からの避難所開設要請の前に住民が避難してきた場合を想定



あわてずに行動！ 地震 こんな時どうする？

学校にいるとき

1 自分の身を守る

- まわりをよく見て、「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所で揺れがおさまるのを待ちます。
- 机やテーブルの下にもぐり、脚をつかみ、揺れがおさまるのを待ちます。
- 体育館など広い場所にいたら、中央付近にしゃがんで、揺れがおさまるのを待ちます。

2 避難する

- 放送や先生の指示にしたがって避難します。落ちていたり倒れている物に気をつけ、「**お・は・し・も**」の約束を守って避難します。
- 指示があるまで、その場で落ち着いて待ちます。

登下校中のとき

1 自分の身を守る

- まわりをよく見て、「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所で揺れがおさまるのを待ちます。
- 建物（かわら）、ブロックべい、門柱、自動販売機からはなれ、安全な場所に避難します。
- かばんやバッグなどで頭をかくし、しゃがんで揺れがおさまるのを待ちます。

2 避難する

- 近くに大人がいるときは、大人の人に助けを求めて一緒に行動します。
- 学校が近いときは学校へ、家が近いときは家へ避難します。
- 車には、十分気をつけながら移動します。

家やほかの場所にいるとき

1 自分の身を守る

- 食器や本棚、蛍光灯などが「**落ちてこない・倒れてこない・移動してこない**」場所で揺れがおさまるのを待ちます。
- 机やテーブルなど頭をかくせる物の下にもぐり、脚をつかみ、揺れがおさまるのを待ちます。
- あわてて火を消しに行ったり、外には飛び出したりしません。
- 揺れがおさまったら窓を開けます。

2 避難する

- うちの人といっしょに避難所へ避難します。建物（かわら）、ブロックべい、門柱、車などに気をつけて移動します。
- 家の人がないときは、近所の人といっしょに避難します。

学校の対応について

- 酒田市が震度4以下の場合、原則として通常通りの日課です。状況によっては、休校や一斉下校とする場合があります。
- 酒田市が震度5以上の場合、全員を学校に待機させます。保護者の皆さんも、ご自身の安全確保を第一に行動、危険な状況を回避してください。安全が確認できましたら、お子さんを迎えに来てください。
- 休校、登校時間を遅らせる、下校時間を早める場合は、安全安心メールを基準とし連絡します。連絡がなくとも、危険な状況と判断した場合は自宅待機させてください。

他にもいろいろ... 災害 備えあれば憂いなし

